



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

国語の学習

小学校

六年生

十月 第②週



学習を始める前に

①必ず用意してください

・ノート

(学習しやすいように、漢字のノートと国語のノートを分けるなど工夫をすること。)

・筆記用具 (赤ペンも用意すること。)

②注意

・大事だと思うところはノートに書いてください。

・このビデオで使っているスライドを印刷したい人は、最後の**お知らせ**を見てください。

・「ビデオを止めてください。」と言われたら、ビデオを止めて、先生の指示に従ってください。

・必要があるときは、ビデオを止めたり、もう一度ビデオを見たりするなど、それぞれ工夫をください。

先週の宿題から

次回の授業までにやる勉強です。

1. 漢字

今日の授業で書いた漢字の練習をしましょう。
文章で書けるように、新出漢字以外の漢字も復習のため練習しましょう。

2. 音読 「やまなし」を読みましょう。

3. 言葉の勉強

次の問題を国語のノートにやりましょう。

① 「にわか」を使って、文を作りましょう。
例…にわかになんか空気がくもってきた。

② ①と②、どちらの使い方が正しいですか。

《あらんかぎり》

① あらんかぎりの人が意見を述べた。

② あらんかぎりの力をだしきる。

《居すくまる》

① 母におこられて居すくまる。

② ゲームがやりたくて居すくまる。

漢字テスト

1. 読み方を漢字ノートに書きましょう。

《 答え合せをこの後します。 》

〈新しく学習する漢字〉

二枚

縮む

棒

熟す

〈すでに習った漢字の復習〉

底

笑う

夢

燃える

お酒

漢字テスト

1. 読み方を書きましよう。

《 答え合せをしましよう。 》

〈新しく学習する漢字〉

二枚

にまい

縮む

ちぢむ

棒

ぼう

熟す

じゆくす

〈すでに習った漢字の復習〉

底

そこ

笑う

わらう

夢

ゆめ

燃える

もえる

お酒

おさけ

漢字テスト

2. ー線の漢字を漢字ノートに書きましよう。

《 答え合せをこの後でします。 》

ニマイの青い幻灯げんです。

のびたりちぢんだりする。

まつすぐなボウ。

りんごがよくじゅくしている。

〈すでに習った漢字の復習〉

青白い水のそこ。

クランボンわらった。

ゆめのような水の中。

火をもやす。

おいしいおさげができる。

漢字テスト

2. 一線の漢字を漢字ノートに書きましよう。

《 答え合せをこの後でします。 》

二枚の青い幻灯げんです。

のびたり縮ちぢんだりする。

まつすぐな棒。

りんごがよく熟じやくしている。

《すでに習った漢字の復習》

青白い水の底。

クランボン笑わらった。

夢ゆめのような水の中。

火を燃もやす。

おいしいお酒さけができる。

やまなし

みやざわけんじ
宮沢賢治

小さな谷川の底を写した、二枚の青い幻灯げんです。

一、五月

二ひきのかにの子どもらが、青白い水の底で話していました。

「**クラムボン**は 笑ったよ。」

「クラムボンは かぶかぶ笑ったよ。」

「クラムボンは はねて笑ったよ。」

「クラムボンは かぶかぶ笑ったよ。」

上の方や横の方は、青く暗く鋼はがねのように見えます。そのなめらかな天井じょうを、つぶつぶ暗いあわが流れていきます。

「クラムボンは 笑っていたよ。」

「クラムボンは かぶかぶ笑ったよ。」

「それなら、なぜクラムボンは 笑ったの。」

「知らない。」

つぶつぶあわが流れていきます。かにの子どもらもぽつぽつと、つづけて五、六つぶあわをはきました。それは、ゆれながら水銀のように光って、ななめに上の方へ上って行きました。

つうと銀の色の腹をひるがえして、一ひきの魚が頭の上を過ぎて行きました。

《新しい漢字》

*クラムボン 作者が作った言葉。

二枚マイ

◆かにの兄弟は、何について話をしていますか。

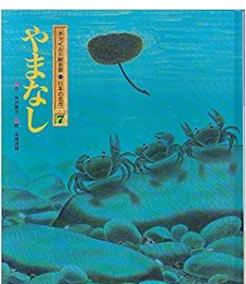
クラムボンについて話をしている。

◆クラムボンはどうしていると、かにの兄弟は言っていますか。

クラムボンは笑った。クラムボンはかぶかぶ笑った。

◆このページの最後に登場したのは？

一ひきの魚。



「クラムボンは 死んだよ。」

「クラムボンは 殺されたよ。」

「クラムボンは 死んでしまったよ……。」

「殺されたよ。」

「それならなぜ殺された。」兄さんのかには、その右側の四本の足の中の二本を、弟の平べったい頭にのせながらいました。

「分からない。」

魚がまたつうともどつて、下しもの方へ行きました。

「クラムボンは 笑ったよ。」

「笑った。」

にわかにパツと明るくなり、日光の黄金きんは、夢のように水の中に降ふつてきました。

波から来る光のあみが、底の白い岩の上で、美しくゆらゆらのびたり縮ちぢんだりしました。あわや小さなごみからは、まっすぐなかげの棒ぼうが、ななめに水の中に並んで立ちました。

魚が今度はそこらじゅうの黄金の光をまるつきりくちやくちやにして、おまけに自分は鉄色に変に**底光**りして、また上かみの方へ上りました。

「お魚は、なああ行ったり来たりするの。」

弟のかにがまぶしそうに目を動かしながらたずねました。

「何か悪いことをしてるんだよ。取とってるんだよ。」

「取とってるの。」

「うん。」

そのお魚がまた上かみからもどつてきました。今度はゆっくり落ち着いて、ひれも尾おも動かさず、ただ水にだけ流されながら、お口を輪わのように円まくしてやって来きました。そのかげは、黒く静かに底の光のあみの上をすべりました。

「お魚は……。」

《新しい漢字》

縮ちぢむ

棒ぼう

◆「クラムボンは 笑わったよ。」なぜ笑わったと思いますか。

魚うしが下したの方ほうに行いったから。

◆「何か悪いことをしてるんだよ。取とってるんだよ。」

悪いこととは何だと思おもいますか。

クラムボンを食くべた。クラムボンを殺ころした。



そのときです。にわか天井に白いあわが立って、**青光り**のまる

でぎらぎらする鉄砲だまのようなものが、いきなり飛びこんできました。兄さんのかにははつきりとその青いものの先が、コンパスのように黒くがっているのを見ました。と思ううちに、魚の白い腹がぎらつと光つて一ぺんひるがえり、上の方へ上ったようでしたが、それつきりもう青いものも魚のかたちも見えず、光の黄金のあみはゆらゆらゆれ、あわはつぶつぶ流れました。

二ひきはまるで声も出ず、**居すくま**ってしまいました。

お父さんのかにがでてきました。

「どうしたい。ぶるぶるふるえているじゃないか。」

「お父さん、今、おかしなものが来たよ。」

「どんなもんだ。」

「青くてね、光るんだよ。**はじ**が、こんなに黒くがつてるの。それが来たらお魚が上へ上っていったよ。」

「そいつの目が赤かったかい。」

「分からない。」

「ふうん。しかし、そいつは鳥だよ。かわせみというんだ。だいじょうぶだ、安心しろ。おれたちはかまわないんだから。」

「お父さん、お魚はどこへ行ったの。」

「魚かい。魚はこわい所へ行った」

「こわいよ、お父さん。」

「いいいい、だいじょうぶだ。心配するな。そら、**かば**の花が流れてきた。ごらん、きれいだろう。」

あわといっしょに、白いかばの花びらが天井をたくさんすべってきました。

「こわいよ、お父さん。」弟のかにも言いました。

光のあみはゆらゆら、のびたり縮んだり、花びらのかげは静かに砂をすべりました。

***はじ** はし。物のふち。へりのこと。

***かば** 山桜の一種。

◆**ぎらぎらする鉄砲だまのようなもの**は何だとお父さんは言いましたか。

鳥。かわせみ。

◆それはどんなものだと、かにの子どもは説明しましたか。
青くて光る。はじが黒くがつている。



二、十二月

かの子どもらはもうよほど大きくなり、底の景色も夏から秋の間にすっかり変りました。

白いやわらかな丸石も転がってき、小さなきりの形の水晶しゅうのつぶや**金雲母**ものかけらも、流れてきて止まりました。

その冷たい水の底まで、ラムネのびんの月光がいつぱいにすき通り、天井では、波が青白い火を燃やしたり消したりしているよう。辺りはしんとして、ただ、いかにも遠くからというように、その波の音がひびいてくるだけです。かの子どもらは、あんまり月が明るく水がきれいなので、ねむらないで外に出て、しばらくだまってあわをはいて天井の方を見ていました。

「やっぱり、ぼくのあわは大きいね。」

「兄さん、わざと大きくはいてるんだい。ぼくだって、わざとならもっと大きくはけるよ。」

「はいてごらん。おや、たったそれきりだろう。いいかい、兄さんがはくから見ておいで。そら、ね、大きいだろう。」

「大きないや、おんなじだい。」

「近くだから、自分のが大きく見えるんだよ。そんなら一緒にはいてみよう。いいかい、そら。」

「やっぱりぼくのほう、大きいよ。」

「本当かい。じゃ、も一つはくよ。」

「だめだい、そんなにのびあがっては。またお父さんのかにが出てきました。」

「もうねろねろ。おそいぞ。あした**イサド**へ連れて行かんぞ。」

「お父さん、ぼくたちのあわ、どっち大きいの。」

「それは兄さんのほうだろう」

「そうじゃないよ。ぼくのほう大きいんだよ。」

弟のかには泣きそうになりました。

そのとき、トブン。

黒い丸い大きなものが、天井から落ちてずうつとしずんで、また上へ上つていきました。きらきらと黄金のぶちが光りました。

***金雲母** 黄色味をふくんだ、褐色の雲母。

***イサド** 作者想像して作った町。

◆ 天井とはどこのことだと思えますか。

水面。波の所。



「かわせみだ。」

子どもらのかには、首をすくめて言いました。

お父さんのかには、**遠眼鏡**とおめがねのような両方の目を**あらんかぎりの**ばして、よくよく見てから言いました。

「そうじゃない。あれはやまなしだ。流れて行くぞ。ついていってみよう。ああ、いいにおいだな。」

なるほど、そこらの月明かりの水の中は、やまなしのいいにおいでいっぱいでした。

三びきはぼかぼか流れていくやまなしの後を追いました。

その横歩きと、底の黒い三つの**かげ法師**が、**合せて六つ**、おどるようにして、やまなしの円いかげを追いました。

間もなく水はサラサラ鳴り、天井の波はいよいよ青いほのおを上げ、やまなしは横になって木の枝に引っかけ止まり、その上には、月光のじがもかも集まりました。

「どうだ、やっぱりやまなしだよ。よく熟している。いいにおいだろう。」

「おいしそうだね。お父さん。」

「待て待て。もう二日ばかり待つとね、こいつは下へしずつんでき。それから、**ひとり**でにおいしいお酒ができるから。さあ、もう帰ってねよう。おいで。」

親子のかには三びき、自分らの穴に帰って行きます。

波は、いよいよ青白いほのおをゆらゆらと上げました、それまた、**金剛石**の粉をはいているようでした。

私の幻灯はこれでおしまいです。

《新しい漢字》 **熟す**ジュク

***金剛石** **ダイヤモンド**のこと

◆かへの兄弟は、落ちてきたものが何だと思いましたか。またそれはどうしてだと思えますか。

かわせみだと思った。五月で**かわせみ**が来てこわかったから。

◆何と何を**合せて六つ**なのですか。

かに三びきとかにの**かげ法師三つ**。

◆やまなしは**二日ほど**たつとどうなりますか。

下にしずつんできて、**ひとり**でにおいしいお酒ができる。

五月

二ひきのかにの子どもらが、青白い水の底で話していました。

「クラムボンは 笑ったよ。」

「クラムボンは かふかふ笑ったよ。」

「クラムボンは はねて笑ったよ。」

「クラムボンは かふかふ笑ったよ。」

上の方や横の方は、青く暗く鋼はがねのように見えます。そのなめらかな天井じょうを、つぶつぶ暗いあわが流れていきます。

「クラムボンは 笑っていたよ。」

「クラムボンは かふかふ笑ったよ。」

「それなら、なぜクラムボンは 笑ったの。」

「知らない。」

つぶつぶあわが流れていきます。かにの子どもらもぽつぽつとつづけて五、六つぶあわをはきました。それは、ゆれながら水銀のように光って、ななめに上の方へ上って行きました。

つうと銀の色の腹をひるがえして、一ぴきの魚が頭の上を過ぎて行きました。

「クラムボンは 死んだよ。」

「クラムボンは 殺されたよ。」

「クラムボンは 死んでしまったよ……。」

「殺されたよ。」

「それならなぜ殺された。」

兄さんのかには、その右側の四本の足の中の二本を、弟の平べったい頭にのせながらいいました。

「分からない。」

魚がまたつうともどつて、下しもの方へ行きました。

「クラムボンは 笑ったよ。」

「笑った。」

にわかににパツと明るくなり、日光の黄金きんは、夢のように水の中に降ってきました。

波から来る光のあみが、底の白い岩の上で、美しくゆらゆらのびたり縮んだりしました。あわや小さなごみからは、まっすぐなかげの棒が、ななめに水の中に並んで立ちました。

1. 前のページの文章を読んで、五月の川底の情景をまとめましょう。
 - ① 上の方や横の方は、
 - ② にわかにパツと明るくなり、
 - ③ 波から来る光のあみが、



2. 「クラムボン」について書かれていることをまとめましょう。

一匹きの魚が頭の上をすぎていきました。

魚がまたつうともどつて、下の方に行きました。

1. 前のページの文章を読んで、五月の川底の情景をまとめましょう。

① 上の方や横の方は、

青く暗く鋼のように見えます。

② にわかにパツと明るくなり、

日光の黄金は、夢のように水の中に降ってきました。

③ 波から来る光のあみが、

底の白い岩の上で、美しくゆらゆらのびたり縮んだりしました。



2. 「クラムボン」について書かれていることをまとめましょう。

クラムボンは笑ったよ。

クラムボンはかふかふ笑ったよ。

クラムボンははねて笑ったよ。

クラムボンはなぜ笑ったの。

知らない。

一ぴきの魚が頭の上をすぎていきました。

クラムボンは死んだよ。

クラムボンは殺されたよ。

クラムボンはなぜ殺された。

分からない。

魚がまたつうともどつて、下の方に行きました。

クラムボンは笑ったよ。

「お魚は、なぜああ行ったり来たりするの。」

弟のかにがまぶしそうに目を動かしながらたずねました。

「何か悪いことをしてるんだよ。取ってるんだよ。」

「取ってるの。」

「うん。」

そのお魚がまた上^{かみ}からもどってきました。今度はゆっくり落ち着いて、ひれも尾^おも動かさず、ただ水にだけ流されながら、お口を輪のように円くしてやって来ました。そのかげは、黒く静かに底の光のあみの上をすべりました。

「お魚は……。」

そのときです。にわか天井に白いあわが立って、青光りのまるでぎらぎらする鉄砲^{ぼう}だまのようなものが、いきなり飛びこんできました。

兄さんのかにははつきりとその青いものの先が、コンパスのように黒くとがっているのを見ました。と思ううちに、魚の白い腹がぎらつと光って一ぺんひるがえり、上の方へ上ったようでしたが、それっきりもう青いものも魚のかたちも見えず、光の黄金のあみはゆらゆらゆれ、あわはつぶつぶ流れました。

二ひきはまるで声も出ず、居すくまってしまいました。

3. 弟のかにが「お魚は、なぜああ行ったり来たりするの。」と聞いたのに対して、兄さんかにはどう答えましたか。

それは魚が何をしているという意味でしょうか。自分の考えを書きましよう

4. 川に飛び込んできた「かわせみ」の不気味さやおそろしさを、たとえを使ってどう表現していますか。

5. かわせみが飛び込んできたのを見てかにの兄弟はどんな様子でしたか。

「お魚は、なぜああ行ったり来たりするの。」
弟のかにがまぶしそうに目を動かしながらたずねました。

「何か悪いことをしてるんだよ。取ってるんだよ。」

「取ってるの。」
「うん。」

そのお魚がまた上^{かみ}からもどってきました。今度はゆっくり落ち着いて、ひれも尾^おも動かさず、ただ水にだけ流されながら、お口を輪のうに円くしてやって来ました。そのかげは、黒く静かに底の光のあみの上をすべりました。

「お魚は……。」

そのときです。にわか天井に白いあわが立って、青光りのまるでぎらぎらする鉄砲^{ぼう}だまのようなものが、いきなり飛びこんできました。

兄さんのかにははつきりとその青いものの先が、コンパスのように黒くとがっているのを見ました。と思ううちに、魚の白い腹がぎらつと光って一ぺんひるがえり、上の方へ上ったようでしたが、それつきりもう青いものも魚のかたちも見えず、光の黄金のあみはゆらゆらゆれ、あわはつぶつぶ流れました。

二ひきはまるで声も出ず、居すくまってしまいました。

3. 弟のかにが「お魚は、なぜああ行ったり来たりするの。」と聞いたのに対して、兄さんかにはどう答えましたか。

「何か悪いことをしてるんだよ。取ってるんだよ。」

それは魚が何をしているという意味でしょうか。自分の考えを書きましよう

魚がクラムボンを食べている。クラムボンはプランクトンかもしれない。

4. 川に飛び込んできた「かわせみ」の不気味さやおそろしさを、たとえを使ってどう表現していますか。

青光りのまるでぎらぎらする鉄砲だまのようなもの

青いものの光が、コンパスのように黒くとがっている。

5. かわせみが飛び込んできたのを見てかにの兄弟はどんな様子でしたか。

二ひきはまるで声も出ず、居すくまってしまいました。

十二月

かにの子どもらはもうよほど大きくなり、底の景色も夏から秋の間にすっかり変りました。

白いやわらかな丸石も転がってき、小さなきりの形の水晶しょうのつぶや**金雲母**ものかけらも、流れてきて止まりました。

その冷たい水の底まで、ラムネのびんの月光がいっぱいにすき通り、天井では、波が青白い火を燃やしたり消したりしているよう。辺りはしんとして、ただ、いかにも遠くからというように、その波の音がひびいてくるだけです。

そのとき、トブン。

黒い丸い大きなものが、天井から落ちてずうつとしずんで、また上へ上っていききました。きらきらつと黄金のぶちが光りました。

「かわせみだ。」

子どもらのかには、首をすくめて言いました。

お父さんのかには、遠眼鏡のような両方の目をあらんかぎりのばして、よくよく見てから言いました。

「そうじゃない。あれはやまなした。流れて行くぞ。ついていってみよう。ああ、いいにおいだな。」

6. 右の文章を読んで、十二月の川底の情景をまとめましょう。

・ 白いやわらかな丸石も転がってき、

・ その冷たい水の底まで、

7. 黒い丸い大きなものが落ちてきたとき、かにの子どもたちは、なんだと思いましたか。また、本当はなんだだったのですか。

十二月

かにの子どもらはもうよほど大きくなり、底の景色も夏から秋の間にすっかり変りました。

白いやわらかな丸石も転がってき、小さなきりの形の水晶しょうのつぶや**金雲母**ものかけらも、流れてきて止まりました。

その冷たい水の底まで、ラムネのびんの月光がいっぱいにすき通り、天井では、波が青白い火を燃やしたり消したりしているよう。辺りはしんとして、ただ、いかにも遠くからというように、その波の音がひびいてくるだけです。

そのとき、トブン。

黒い丸い大きなものが、天井から落ちてずうつとしずんで、また上へ上っていききました。きらきらつと黄金のぶちが光りました。

「かわせみだ。」

子どもらのかには、首をすくめて言いました。

お父さんのかには、遠眼鏡のような両方の目をあらんかぎりのばして、よくよく見てから言いました。

「そうじゃない。あれはやまなした。流れて行くぞ。ついていってみよう。ああ、いいにおいだな。」

6. 右の文章を読んで、十二月の川底の情景をまとめましょう。

・ 白いやわらかな丸石も転がってき、

ちいさなきりの形の水晶のつぶや**金雲母**のかけらも、**流れてきて止まりました。**

・ その冷たい水の底まで、

ラムネのびんの月光が**いっぱい**にすき通り、天井では、**波が青白い火を燃やしたり消したり**しているよう、

7. 黒い丸い大きなものが落ちてきたとき、かにの子どもたちは、**なんだ**と思いましたか。また、本当は**なんだ**だったのですか。

かわせみだと**思った**が、**やまな**し**だった**。

なるほど、そこらの月明かりの水の中は、やまなしのいいにおいでいっぱいでした。

三びきはぼかぼか流れていくやまなしの後を追いました。

その横歩きと、底の黒い三つのかげ法師が、合せて六つ、おどるようにして、やまなしの円いかげを追いました。

間もなく水はサラサラ鳴り、天井の波はいよいよ青いほのおを上げ、やまなしは横になって木の枝に引っかかって止まり、その上には、月光のじがもかもか集まりました。

「どうだ、やっぱりやまなしだよ。よく熟している。いいにおいだろう。」

「おいしそうだね。お父さん。」

「待て待て。もう二日ばかり待つとね、こいつは下へしずんできて。それから、ひとりでおいしいお酒ができるから。さあ、もう帰ってねよう。おいで。」

8. ぼかぼか流れていくやまなし後を追う、かへの親子の様子を書ぬきましょう。

9. 「おいしそうだね。お父さん。」と言って、たべたがるかへの子どもたちを、お父さんが止めた理由を書きましょう。



なるほど、そこらの月明かりの水の中は、やまなしのいいにおいでいっぱいでした。

三びきはぼかぼか流れていくやまなしの後を追いました。

その横歩きと、底の黒い三つのかげ法師が、合せて六つ、おどるようにして、やまなしの円いかげを追いました。

間もなく水はサラサラ鳴り、天井の波はいよいよ青いほのおを上げ、やまなしは横になって木の枝に引っかかって止まり、その上には、月光のじがもかもか集まりました。

「どうだ、やっぱりやまなしだよ。よく熟している。いいにおいだろう。」

「おいしそうだね。お父さん。」

「待って待て。もう二日ばかり待つとね、こいつは下へしずんできるとね。さあ、もう帰ってねよう。おいで。」

8. ぼかぼか流れていくやまなし後を追う、かにの親子の様子を書ぬきましょう。

その横歩きと、底の黒い三つのかげ法師が、合せて六つ、おどるようにして、やまなしの円いかげを追いました。

9. 「おいしそうだね。お父さん。」と言って、たべたがるかにの子どもたちを、お父さんが止めた理由を書きましょう。

二日ほど待っていれば、下にしずんできて、ひとりでおいしいお酒ができるから。



とめましよう。

	かわせみ	やまなし
川に入ってきたときの様子	<ul style="list-style-type: none"> ・いきなり飛び込んだ。 （ 	<ul style="list-style-type: none"> ・（ ）落ちた。 ・黒くて丸い。
かへの兄弟の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・（ 	<ul style="list-style-type: none"> ・（ ） ・お酒ができるのを待つ。
作者が言いたかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・死のこわさ、生きる厳しさ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・待つことの （ ） 幸せな気持ち。

〈文理 教科書ワーク参照〉

題名の付け方はとても大切です。

「二枚の青い幻灯」は五月と十二月の小さな谷川の底を表しています。しかし題名は、「十二月」にだけ少し出てくる「やまなし」になっていきます。これは、作者が、「十二月」でえがいた何かを大事に思い、みなさんにそれを知ってほしいためでしょう。

では、なぜ作者は題名を「やまなし」にしたのは、なぜだと思えますか。

《来週の感想文に入れてみましょう。》

10. 五月の「かわせみ」と十二月の「やまなし」を、対比してまとめましょう。

	かわせみ	やまなし
川に入ってきたときの様子	<ul style="list-style-type: none"> いきなり飛び込んだ。 (青光りのぎらぎらする鉄砲だまのよう。) 	<ul style="list-style-type: none"> (トブンと) 落ちた。 黒くて丸い。
かへの兄弟の様子	<ul style="list-style-type: none"> (声も出ず、居すくまってしまった。) 	<ul style="list-style-type: none"> (みんなで追いかける。) お酒ができるのを待つ。
作者が言いたかったこと	<ul style="list-style-type: none"> 死のこわさ、生きる厳しさ。 	<ul style="list-style-type: none"> 待つことの(喜び)、幸せな気持ち。

〈文理解 教科書ワーク参照〉

題名の付け方はとても大切です。

「二枚の青い幻灯」は五月と十二月の小さな谷川の底を表しています。しかし題名は、「十二月」にだけ少し出てくる「やまなし」になっています。これは、作者が、「十二月」でえがいた何かを大事に思い、みなさんにそれを知ってほしいためでしょう。

では、なぜ作者は題名を「やまなし」にしたのは、なぜだと思えますか。

《来週の感想文に入れてみましょう。》

宿題

次回の授業までにやる勉強です。

1. 漢字

今日の漢字テストで間違ってしまった漢字の練習をしましょう。

(新出漢字、すでに習った漢字両方練習しましょう。)

2. 音読 「やまなし」を読みましょう。

3. 「やまなし」を読んで、考えたこと、感じたことをまとめておきましょう。

《来週書く感想文の参考にします。》



お知らせ

1. 質問があったら、メールをください。すぐお返事します。
 2. 自分が書いた文章を見てもらいたいときはメールで送って
くれば、直して送り返します。
- ❖ メールアドレスは、 Akiko@JPNCClass.com です。
 - ❖ このビデオのスライドはWebページ <http://JPNCClass.com> から
ダウンロードや印刷ができます。



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

国語の学習

小学校

六年生

年間学習表



8月	7月	6月	5月	4月		
		<p>討論会をしよう 討論会の流れと進 め方を学習しよう。</p>			<p>1年間の学習を通し て先生の話を聞き、 学習を進めよう。</p>	話す／聞く
	<p>本は友達 自分の好きな本を 紹介しよう。</p>	<p>ガイドブックを作る う 読み手に必要な情 報、自分が伝えた いことをふまえて、 文章を書こう。</p>	<p>生き物はつながりの 中に 文章全体を短くま とめよう。(要約 しよう。)</p>	<p>カレライス 主人公と似た経験 について書こう。</p>	<p>新聞記事 記事の要約をし、 記事に対する自分 の意見を書こう。</p>	書く
<p>船りんご 詩の言葉に現れた 筆者の気持ちを読 み取ろう。</p>	<p>森へ 情景を想像しながら 読んで、森のイ メージを豊かに伝 える効果的な表現 を味わおう。</p>	<p>短歌・俳句の世界 短歌や俳句を讀ん で、リズムや言葉 の美しさを感じよ う。</p>	<p>生き物はつながりの 中に 筆者が文章を通し て一番言いたいこ とは何か考えよう。</p>	<p>カレライス 主人公の気持ちを 考え、自分と重ね 合わせて読んでみ よう。</p>	<p>新聞記事 記事の内容を読み 取るう。</p>	読む
<p>同じ訓を持つ漢字 同じ訓を持つ漢字 それぞれの意味と 使い方を知ろう。</p>			<p>暮らしの中の言葉 ことわざや漢字四 字の言葉の、意味 や使い方を理解し よう。</p>	<p>漢字の形と音・意味 漢字の音を表す部 分、意味を表す部 分を知り、漢字の 組み立てを理解し よう。</p>	言葉	

1月	12月	11月	10月	9月	
	自分の考えを発信しよう 自分の考えをインターネットを使って、友だちに発信しよう。			みんなで生きる町 調べたことや考えたことを分かりやすく伝えよう。	話す／聞く
今、わたしは、ぼくは 自分の思いが伝わるような表現を身に付けよう。	自分の考えを発信しよう 「平和」に関する資料を通じて、自分の考えを書こう。	イートハーヴの夢 宮沢賢治の考えについて分かったこと、思ったことを書こう。	やまなし この作品を読んで思ったことを、自分なりにまとめてみよう。	みんなで生きる町 調べたことをもとに、提案書を作ろう。	書く
感動を言葉に見たり感じたりしたことをもとに、心のつぶやきを言葉にしよう。	平和のとりでを築く文の書き方の特徴に気をつけて、筆者の考えを読み取ろう。	イートハーヴの夢 宮沢賢治の考え方や生き方を読み取ろう。	やまなし 独特な言葉や表現を味わおう。情景を想像しながら読んで、作品の特徴を考えよう。	みんなで生きる町 だれもが暮らしやすくするにはどうしたらいいか考えよう。	読む
	インターネットと学習 インターネットを学習に役立てるために、注意することを確かめよう。	覚えておきたい言葉 教科や社会生活の中で使われる言葉の意味を理解しよう。	熟語の成り立ち 漢字二字・三字・四字以上の熟語について理解を深めよう。	日本で使う文字 平仮名と片仮名の由来を知ろう。ローマ字とのかかわりを知ろう。	言葉

	3月	2月	
			話す／聞く
	<p>今、君たちに伝えたいこと 筆者が伝えたいことをまとめ、俺に対する自分の考えを書こう。</p> <p>生きる 「生きる」の形をまねて、詩を創ってみよう。</p>	<p>わたしたちの言葉 いろいろなあいさつについてまとめてみよう。</p>	書く
	<p>今、君たちに伝えたいこと 筆者が経験をとおして子どもたちにつたえたいメッセージを読み取ろう。</p> <p>生きる それぞれの連に注意しながら、作者の考える「生きる」を読み取ろう。</p>	<p>海の命 周りの人々とのかわりの中で成長していく主人公の姿を読み取ろう。登場人物の言動から生き方や考え方を読み取ろう。</p> <p>言葉の橋 詩を味わい、心を伝える言葉の働きについて筆者の考えを読みとろう。</p>	読む
<p>六年生の漢字 六年生で習った漢字の復習をしよう。</p>		<p>漢字クイズ 小学校で習った漢字を、正しく理解しているか確かめよう。</p>	言葉